

加茂市立 若宮中学校



学校データ

【学級数】

5学級

【児童生徒数】

102人

【地域コーディネーターの有無】 無

地域に夢と希望をはぐくむキャリア教育プランのある学校を目指す

1 はじめに

「地域貢献」として、地域の特産物を販売したり、職場体験と称して地域の商店のお手伝いをしたりするなど、地域に愛着をもたせる学習が定着してきた。

しかしその実践のほとんどは大人が気を配り、お膳立てして、そのルールに乗って子どもが体験活動しているといった感があり、現況として、生徒も教職員も、日々の多忙化のせいなのか、これらの体験学習が、前例踏襲に縛られ、やらされているだけになってはいないだろうか。何より生徒も教職員も、以前より楽しそうでないと感じるのだ。

そこで今年度から若宮中学校では、郷土に有意義で、貢献できるような人材の育成を目標に掲げ、特に地域で起業する意欲がもてる、生徒の育成に焦点づけた、新たなキャリア教育プランを策定した。

まず、従来の職場体験の見直しを図り、担当教職員の負担を軽減したのである。

担当教職員が毎年個々に了承を得た職場で、生徒個々が短時間のお手伝いや見学をするという職場体験から、生徒が地域で新しく起業する意欲を喚起するような、一斉体験の場を発掘することを重視、注力することとした。そして慣例化していた、多数の職場個々に教職員が折衝する負担をなくした。

2 取組の実際

このキャリア教育プランでは指導要領で言う、将来の夢や希望を目指して取り組もうとする意欲を育むことを重視した。

更に基盤としての、全学年共通で実践する活動と、各学年の発達段階で実践する活動の二本柱とした。

(1) 学校共通のもの

① 地域の高校で体験的に定期的に学ぶ

地域にある加茂農林高校で全校生徒が学年ごとに分かれて、高校生と交流して



加茂農林での実習風景

授業を受講し、体験的学習を実施した。

地域の素材や、資源を生かした体験を直接することで、地域を改めて見直す契機にできた。

② 加茂川清掃

加茂川清掃は市を挙げての奉仕活動で、その原点は若宮中学校生徒が始めた活動だと言われており、伝統的にそれへの参加意識は高い。これを郷土の伝統を大切にする意識を醸成する活動と位置づけた。

③ 私の起業プラン発表・交流会

3学期に全校生徒の交流発表会を設け、「あったらいいなこんな会社」「できるんじゃないかこんな会社」を出し合う。

④ Wakamiya 輪の日

「ごっつお祭り」という、地域商店街のイベントに向けて、学区で奉仕作業をした。当日の物品販売でなく、一緒に準備を手伝うことを重視し、分担場所に赴き、イベント作業、商店街や公共施設の整備作業等を行いながら、地域の方々と交流した。

⑤地域の職場を知る学び

職場体験を見直す一方で、生徒個々が興味のある地域の職場や、その仕事内容を調べる学習を大切にした。

(2)各学年の実践

①1学年

職業や地域について知る学年

～郷土で起業できる可能性について、市外で飛躍した事例等を学ぶ期間～

○一度は需要の減った木工所から再スタートして現在、



ヨネックス工場見学

世界的企業にまで飛躍した県内企業から学んだ。

○県内の色々な職業を学んだ。

②2学年

1年生で学んだことを膨らませ、自己実現する方法を探る学年

～地域で自分はこの先、どのように学んでいくか、体験や見学をとおして吟味する期間～

○一度は傾いた家業を継いでネット通販によっ



G.F.G.S 工場見学

て、世界的に成長している市内の若手社長より、体験や夢を聞いた。

○地域の専門学校の体験をした。

③3学年

学んだことをもとに、自己実現を図るための進路決定をする学年

～自分はどういう貢献ができて、そのためどのような場で学びたいか決定する期間～

○地元大学訪問

地元大学を訪問して、専門的で高度な施設等の見学を通し、これまでの学びを生かしながら、自己の進路の参考にした。

○自分のこれまでの学びを生かしながら関心もてる地元の高校の体験入学に各自で積極的に参加した。

3 成果と課題

地域から新たな風を起こそうとする生徒育成のための、キャリア教育、職場体験学習にしたいと保護者、地域に説明し、理解と支持を得た。特に、一度は斜陽となって再生した会社や工場に直接生徒が出向いて、学んだことは有意義だった。

「なぜ彼等は故郷にこだわったのか？」

生徒はこの問いを育み、「好きになれなかったこの町を見つめ直したい」と、感想に書く生徒が多くいた。この取組で、(1)故郷のよさを見直す生徒が増えた。(2)明日が楽しみと答える生徒が増えた。(3)地域貢献に意欲的な生徒が増えた。といった結果が出た。故郷に夢と希望をもち、仮に一度は故郷から出たとしても、故郷を愛する資質としての人間性が、生徒に育まれたものと考えている。

今後、更に分析の蓄積が課題である。

4 おわりに

自校の慣例や教育プランを適宜、見直し、生徒、保護者、教職員、地域を巻き込むことで、地域を見つめ直し、地域に夢と希望をもてる人を育み、地域の活性化に貢献する学校でありたいと考える。